

# 新大久保駅事故を風化させるな



大町陽一郎氏の指揮(事務局提供)

## 韓人OB コンサート企画

1月26日夜、JR新大久保駅ホームから線路に転落した乗客を助けようとして、自らを犠牲にした韓国人就学生の李秀賢さんとカメラマンの関根史郎さんをしのぶ、日韓友好チャリティコンサートが4月15日、墨田区の「すみだトリフォニーホール」で開かれた。今回のチャリティは、2人の勇気ある行動をずっと語り続けていこうという、韓国人の国際ジャーナリスト、姜河龍さん(77)が発起人となった。姜さんは朝鮮戦争の混乱を逃れて1952年、日本にやって来た。まもなく中央大学商学部へ編入、1954年に卒業されたOBで以後、日本で活躍されている。

### 日韓演奏家が競演

### 両国の友好親善を誓う

コンサートは現東京フィルハーモニー交響楽団専任指揮者の大町陽一郎氏と日本生まれの韓国人で指揮者である、姜さんの長男、T・W・カソン氏、現韓国延世大教授の丁讃宇氏の3演奏家とN響団友オーケストラの競演が実現したものだ。コンサートは司会者なし。出演者の紹介、新大久保駅での事故についての語りも入らず、オーケストラによる演奏のみといった、飾り気のないものだ。

だが、これがかえって重々しい雰囲気を出すものとなった。まず第1部は、カン氏の指揮によるヴェルディの歌劇「運命の力」序曲、ベートヴェンの交響曲第七番イ長調第二楽章、そしてスメタナの交響詩「モルダウ」。第2部は大町氏の指揮による、グリーグの「すぎにし春」、サラサーテの「ツイゴイネルワイゼン」、最後にベートーヴェンの交響曲第五番八短調「運命」が

演奏された。

なかでも「ツイゴイネルワイゼン」では、丁氏がソロで演奏、聴衆のなかにはそつと涙をぬぐう人もいた。丁氏は新大久保駅での事故のあと、ホームでバイオリンを演奏した人で



T・W・カン氏の指揮（同）

もある。この日のオーケストラの演奏に、私たちも胸がいっぱいになった。しかし、それは演奏の感動だけではなかった。

新大久保駅で犠牲になった2人へのぶ気持ちと、あの出来事があったて、さらに日韓友好が叫ばれた背景もあつての感動だった。あの事故で日本と韓国はますます近くなった。李さんと関根さんの死を無駄にはできない。「2人の死を風化させたくない」という気持ちだった。



学生記者に答える姜氏

## 命からがら日本へ

### 29年に中大へ編入

OBの姜さん

コンサート前に姜さんの気持ちを伺ってみました。

——お生まれは確か北朝鮮でしたね。そうですね。北朝鮮で生まれ、韓国で育ちました。そして昭和27年（1952）に日本へやって来ました。今年で49年目になります。

——どういう経緯で来日したのですか。

昭和25年から始まった朝鮮戦争時にソウルにいて、命からがら日本へ逃げてきました。29年に中大商学部に入学しました。在籍は2年でした。そして卒業。穀物の相場を見て会社と会社との仲介を約40年やっていました。

——退職されたあとのお仕事は……。3年前から有楽町にある外国人記者クラブにいます。一応、韓国の出

版社に籍を置いています。基本的にはフリーランサーです。経済評論を中心に書いています。

——今回のコンサートの経緯は。

前々から日韓の友好を深めるために、何かしたいと思っていました。事故がきっかけとなり、今こそやるべきだと思いました。それに長男と長男の妻、2人の孫とその夫が音楽関係の仕事にしています。私は何もできませんが。

——現在の日本の世相について、どう思われますか。

子供の虐待を最近、よく耳にしますね。だから、今度は「子供を守る会」でもつくりたいですね。

話を聞いてみて、姜さんはとても意志が強く行動的な方だという感じがした。また、世界相手に仕事をしていることから、インターナショナルな視野を持った方という印象だった。

学生記者（**柿元 理栄**）  
（**神山 祐里**）

# 勇気ある行動を語り続けよう